

神楽名

# かみの 上野神楽

伝承地

上野地区  
高千穂町大字上野

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

上野神楽保存会  
代表 甲斐 光男



五穀

## ◆ 神楽の概要・由来・その他

高千穂神楽の<sup>かみの</sup>上野・<sup>たばる</sup>田原系統に属する神楽である。「五穀」や「岩戸開き」の衣装が紫、赤、黄、緑色と華やかで、他の地域より陰陽五行が強く影響しているものと考えられる。33番のうち「太刀神添」「沖逢」「本花」「日(火)の前」「御柴(柴乗り)」は現在舞われていない。内注連の神庭(御神屋)に飾る陰陽五行の切絵「彫り物」は、通常四方中央が「土」であるが、水徳への村の祈願から「水」が位置づけされている。

氏神社の上野神社は、古くは熊野三社権現として熊野神を祀り、明治4年(1871)に周辺の小社を合祀して原野神社と改めている。その後、明治35年(1902)9月に、上野小・中学校下の対岸にあった上野神社(旧祖母嶽神社関の宮)を合祀し同年10月に上野神社と改称した。

## ◆ 芸能の機会・場所

- 上野夜神楽… 11月22日～23日、上野神社にて神事後、民家または公民館等を神楽宿として奉納
- 元旦、太鼓の口開け、春祭り、<sup>はつうま</sup>初午(稻荷神社)、大黒祭等で「式三番」を奉納

## ◆ 演目一覧

上野神社にて神事	神迎え	<sup>みちゆき</sup> 道行	舞い込み	神事	<sup>みこうや</sup> 御神屋始め
彦舞	<sup>たいどの</sup> 太殿	<sup>かみおろし</sup> 神降	鎮守	<sup>じがため</sup> 地固	<sup>ひかんぜ</sup> 弊神添
住吉	<sup>ゆみしょうご</sup> 弓正護	<sup>だいじん</sup> 大神	袖花	<sup>いわくぐり</sup> 岩潜	<sup>しちきじん</sup> 七貴神
<sup>じわり</sup> 地割	<sup>やまもり</sup> 山森	八つ鉢	五穀	柴引き	伊勢神楽
<sup>たちからお</sup> 手力雄	<sup>うずめ</sup> 鈿女	戸取り	舞開き	<sup>しめぐち</sup> 注連口	<sup>くもおろ</sup> 雲下し
神送り				<sup>くりおろ</sup> 繰下し	

※平成25年度の神楽奉納番付に基づく

## ❖ 演目の特徴

前半は、素面による祓い清めの舞が多く、深夜になってから着面の舞が多くなる。「御神体」は睡魔をはらう眠気覚ましのため真夜中に、「岩戸五番」（「柴引」「伊勢」「手力雄」「鈿女」「戸取」「舞開」の六番）は日の出の前後に行われる。

上野・田原地区では、頬被りをし裁着袴姿の道化荒神が「弊神添」の途中で登場し、ユーモラスな所作で舞う。また「大神」の後半の願成就で女性や観光客が入るのを許しているのは、高千穂町では上野地区だけである。

## ❖ その他の特徴

- 面... 地割荒神、舞開き、五穀、鈿女 等
- 楽... 締め太鼓、横笛
- 装束... 白衣、白袴、素襖、千早、裁着袴、毛笠、どっさり、烏帽子、天冠 等
- 採り物... 鈴、榊、扇、御幣、杖（荒神杖等）、弓、矢、刀、麻緒、折敷、襷 等
- 文書... 明治30年（1897）の墨書のある箱に「祖母嶽宮古伝之事」、「日本楽之始」の2点の古文書が伝わっており、安政5年（1858）とある。

## ❖ 伝承の現状・課題

小中学校の総合的学習の中で神楽が教えられており、神楽に興味を持つ子供が増加している。他の地域で働く人やUターンで戻って来た人など含め、若い後継者が育っている。

近年の家屋の構造の変化に伴い神楽宿となる民家が減少してきており、公民館や体育館などの広い会場での開催が増えている。



弊神添・道化荒神



大神



伊勢神楽